



(上)世界化学会記念シンポジウムでは、産官の代表が講演（左から上田氏、野依氏、小林氏）。会場では学生と野依氏が意見を交わす姿が見られた。

(中)世界化学会記念シンポジウムでは、学生と野依氏が意見を交わす姿が見られた。

(下)世界化学会記念シンポジウムでは、学生と野依氏が意見を交わす姿が見られた。

未来への投資 人材育成

博士後期課程の学生支援

問題

科学は世界経済に
何ができるか。

大統領も認めている。マネーフィークは終わって。

環境分野への投資が、次の世界を動かしてゆく。

電気自動車に欠かせないリチウムイオン電池。それは、旭化成が発明した環境技術です。

グリーン・ニューディールという新語に象徴されるように、今、環境のための技術が、経済成長の役割も担おうとしている。はたして、その期待に応えられる技術が、世界にどれだけあるだろう。

電気自動車に欠かせないリチウムイオン電池。これは、1985年、旭化成の吉野が発明した。多くの科学者があきらめてきた新たな二次電池(充電可能な電池)の開発。

そこでは、正極、負極に用いる素材の問題が極めて大きい。吉野の発明は、様々な素材技術を持つ旭化成ならではと言えるかもしれない。

(現在、リチウムイオン電池内のセパレータは世界シェア1位である)蓄電量が大きい。軽量である。有害物質を含まないなど、優れた性能を持つこの電池の誕生で、パソコンなどのモバイル化が一気に進んだ。そして今、電気自動車が走り始める。人々の期待をのせて。

旭化成は考える。長年培ってきた環境技術で、もっと世界と競い合おう。それが、この国の次の成長につながる。そして、世界の経済を活性化してゆく。

昨日まで世界になかったもの「リチウムイオン電池」。詳しくは www.asahi-kasei.co.jp

化学産業は日本だけでなく世界で活躍し、生き残ったものが勝者となる時代を迎えています。個性的な技術が強みとなる日本化学会議(三井化成会長)の藤吉建二会長(日本化学会長)に、これらの日本の化学会議に必要なものについて、台湾、新興国勢も頭頭した日本企業も多く海外に進出して

「従来は自動車や機器など

の主要な顧客が日本に集中して

いたため、日本で世界最高水準の技術を追求し、世界をリードできた。だが、韓国や

中国でも頭頭した日本企業も

これまで自動車や機器など

の主要な顧客が日本に集中して

いたため、日本で世界最高水準の技術を追求し、世界をリードできた。だが、韓国や